

令和7年度 第1回 鈴鹿市地域公共交通会議分科会 議事要点録

日 時	令和7年7月9日（水）14:00～15:30	
場 所	鈴鹿市役所本庁舎 12 階 1205 会議室	
出 席 者	交通ジャーナリスト 鈴木 文彦（分科会長） 中部大学工学部都市建設工学科教授 磯部 友彦（副分科会長） 三重交通株式会社企画部部长 小瀬古 恵則 三重交通株式会社中勢営業所長 谷 直人 鈴鹿市旅客自動車協会鈴乃会会長 辻 泰生 一般社団法人三重県タクシー協会専務理事 景山 和 近畿日本鉄道株式会社名古屋統括部運輸部営業課課長 山本 淳 伊勢鉄道株式会社取締役 石野 雅美 中部運輸局三重運輸支局首席運輸企画専門官 石野 栄一 三重県地域連携・交通部交通政策課主事 前田 志穂美（代理） 鈴鹿市社会福祉協議会 会長 亀井 秀樹	

1 あいさつ

【事務局】

- ・会議は公開とし、議事要点録を後日市ウェブサイトへ公開する。

【分科会長】

- ・委員 11 名中 11 名の出席があり、会議成立を宣言する。

2 報告事項

（1） 令和6年度鈴鹿市地域公共交通計画の評価等結果について

【事務局】

- ・資料1、資料1－1に基づき説明

【副分科会長】

- ・資料1－1 ④については既に目標値を達成しているので、もっと高い目標としてはどうか。

【事務局】

- ・目標値としては達成しているものの、移動手段の確保について課題が多い地域があり、引き続き地域との連携を深め、課題解決に向けた協議を重ねたい。

【分科会長】

- ・未達成の目標値については、全国的な傾向とほぼ同じである。
- ・利用者数については、コロナ禍前の水準と比べると9割くらい戻ってきている。
- ・令和5年から6年は、全国的には横ばい傾向であるところ、この地域で右肩上がりとなっているのは悪い結果ではないので、希望を持って取り組んでいただけたらと思う。

【事務局】

- ・引き続き各種施策に取り組んでいきたい。

(2) デマンド型交通実証運行事業の評価について

【事務局】

- ・資料2に基づき説明。

【委員】

- ・資料2 P10「サービス評価」において「需要に応じた目的地が設置されていたか」という評価項目では、目的地に直通で行けたらもっと乗ったのではないかと、という表現に見えてしまう。
- ・乗り継ぎ拠点の整備や、他の交通機関に乗り継いで便利に利用できるという周知があればもっと利用者が増えたのではないかと。
- ・交通計画に基づいて実証運行を実施されたのであれば、P2「将来ネットワークイメージ」に基づいた分析を実施されるほうがよいのではないかと。
- ・ネットワークイメージの前提が崩れることが懸念されるため、デマンド型交通についてまだ工夫できることがある中で、次回に向けての課題は「域外に停留所を作る」ということにしない方がよいのではないかと。

【事務局】

- ・交通機関を乗り継いで目的地に行ってもらおうというオペレーションを、チラシに実例を載せて周知するようなことができなかったことは反省点である。
- ・交通計画に基づいて実証運行を実施したため、計画に沿った分析としたい。

【委員】

- ・本日の場で、委員から意見をもらって、分析結果を公表していくものなのか。
- ・地域内支線のあり方の一つの実証となったのではないかと。
- ・P15 政策評価については、利用した人の評価となっているが、利用しなかった人も含めての政策評価なのではないかと。
- ・利用しなかった人の意見は、P19にある、まちづくり協議会の意見と同様なのではないかと。

か。

- ・デマンド型交通が有効な選択肢のうちのひとつというのは、本当にあり得るのか。
- ・次回の交通計画に反映させていく、という分析の方が合っているのではないか。

【事務局】

- ・分析結果については、次の交通会議で報告する予定である。
- ・デマンド型交通そのものを全否定するものではなく、工夫や改善の余地がある考える。
- ・地域内支線交通についての考え方を利用者が理解されないと、デマンド型交通として機能し、継続していくのは難しいのではないかと考える。
- ・地域でも説明させていただいたが、既存の交通を維持することが大前提で、支線交通として運行していくことについてもっと議論を進めていきたい。

【副分科会長】

- ・P11 サービス評価をするにはまだ早いのではないか。
- ・稼働率・乗合率について、多いか少なかを結論づけられないのではないか。
- ・事務局側としては、予算をかけて準備し、たくさん利用してくれると考えたが、予想とは違った。
- ・一方で、住民側は、もっと良い乗り物ができると期待したが、予想とは違った。
- ・住民は、支線・幹線という体系を理解することはできるだろうが、どうしたら住民のみなさんにわかってもらえるのか。
- ・事務局としても、全部の時間帯に利用されるとは思ってなかったのではないかと思うので、「利用が少ない」と結論づけるのはまだ早いと思う。

【分科会長】

- ・P2について、なぜこの図にせざるを得ないのかを考えないといけない。
- ・交通資源は昔ほどなく、限られた交通資源の中でやっていけないといけない中で、今あるものを今ある形で活用できればよいと思う。
- ・現状の基幹交通が衰退しないように、今あるものに集約するような形となっていくといけない。
- ・将来も現状の交通を続けていく方法としては、基幹と地域をつなげてネットワークを作っていくなくてはならない。
- ・デマンド型交通を使っている人にとっては好評でも、使っていない人にはそうではないといったように全国的に同じような実証運行結果が出ている。
- ・デマンド型交通といった形で実施していくのであればどんな形が最適か、ほかにどんな方法があるのか、今回の結果だけで評価するのではなく、この数字が今後生かせるのか。
- ・市の限られた予算の中、どんな方法がよいのかを見極めたい。

【委員】

- ・資料2の評価と資料1の⑤の評価をどう結び付けるのか。
- ・財政支援メニューについても次の交通会議で提案するのか。
- ・費用対効果の問題でもあるが、どうやって地域内交通を確保していくのか。

【事務局】

- ・地域主体の移動手段導入のための手引書もひとつの選択肢である。
- ・地域づくりや福祉部門と連携していろんな選択肢をもって最適な交通手段にかかる議論を進めていかななくてはいけない。

【分科会長】

- ・いろいろな選択肢があるというのは大切である。
- ・「デマンド」という言葉に引っ張られるが、「デマンド」は全国的なブームである。
- ・地域のロケーションによっても違うと思うので、もしかしたら違う地域ではうまくいったのかもしれない。
- ・ではデマンド以外にどのような選択肢があるのか、どのような担い手があるのか。
- ・直接行きたい場所に行くのはタクシーが一番だと思うが、そのあたりの見極めは今後実施していくものだと思う。

【副分科会長】

- ・自家用車の活用やライドシェアを視野に入れていかないと、バス・タクシー会社だけではカバーできないようになっていくのではないか。
- ・地域が必要だと求めたら国も動くと思うので、みなさんで考えていきたい。

(2) 令和7年度四日市市AI活用型乗合デマンド交通の実証事業について

- ・資料3に基づき説明。
- ・四日市市と三重交通、四日市タクシー協会が中心となり実施。

【分科会長】

- ・令和6年度も「のる一と」を使用されたのか。

【事務局】

- ・その通りである。

3 その他

【委員】

- ・7/15からミジュマルのラッピングバスが走る。

- ・ 詳細は今後発表されるが、機会があればぜひご利用いただきたい。

【委員】

- ・ ミジュマルライナーを運行している。
- ・ 7/14 に鳥羽と鈴鹿にミジュマル公園ができるので、公共交通機関を使って現地へ行っていただきたい。
- ・ 特に鳥羽は駐車場がないので、公共交通を利用いただきたい。

【委員】

- ・ 4～5月の利用者数は、前年より増加している。
- ・ ミジュマルトレインを毎日運行している。
- ・ 公園のオープンに伴い観光客の増加を期待している。

【委員】

- ・ まちづくり協議会の代表者会議で、地域内のささえあい活動について、会議で共有させていただく。

【委員】

- ・ デマンドを引き続き継続するのであればよろしくをお願いしたい。

【委員】

- ・ また3月にF1が開催されるので、タクシー輸送をしていく。
- ・ 前はだいぶ早く運送することができた。
- ・ 今年はタクシーの運賃を改定することになるかもしれない。

【委員代理】

- ・ 移動手段の確保対策事業として財政支援をするような補助金があるので、来年度以降引き続き導入支援をする際は活用いただきたい。

【委員】

- ・ 国では、交通空白地を解消しようとする動きがあり、ライドシェア等の補助金がある。
- ・ なかなかこのデマンド交通の実証運行結果をもって次につなげていくのは難しいのではないか。
- ・ 限りある資源をいかに組み合わせて使っていくのか、国が参画して進めていけたらと思うので引き続きよろしくをお願いしたい。

【副分科会長】

- ・ 内閣府規制改革推進室からヒアリングを受けたこともあり、今後は国の動きも注視して

いきたい。

【分科会長】

- ・これから知恵を出していけば色々なことができるのではないかと思う。
- ・乗合タクシー・バスを効率的に走らせることができないという地域はある。
- ・社会福祉法人による送迎サービスの実施や、福祉関係のNPOによる生活支援のサービスの中で実施して、移動手段をカバーできている地域はある。
- ・一方で、千葉県のNPOが送迎をしていたが、高齢化でできなくなってしまったケースもあり、担い手の不足と高齢化という課題もある。
- ・そこを併せて考えて、地域に合った交通モードを考えていかななくてはならない。

【事務局】

- ・長時間にわたり活発な議論をいただき感謝申し上げます。
- ・本日の協議を踏まえて、デマンド型交通実証運行事業の評価等を整理し、議事要点録を委員各位に共有させていただく。
- ・次回は鈴鹿市地域公共交通会議を9月または10月に開催予定である。

以上、15時32分終了